

■12月20日

国交省、外国航空会社、日本乗り入れ要件、ICAOのSSCを明文化

(->) 国交省は、外国航空会社に対する日本乗り入れ要件を制定して、国際民間航空機関(ICAO)が「航空機の運航に関する重大な安全上の懸念」(SSC)を指摘した国の航空会社に対する乗り入れ制限を明文化する方針を固めた。これまでは、SSC対象国の航空会社の新規就航や増便に対しては、認めないとの方針を定めて許認可等の運用で差し止めてきた。今後は、乗り入れ要件に照らして、SSC対象国の航空会社の扱いを規定する。2014年1月から適用を開始する。日刊航空が報じた。

要件では、SSC対象国の航空会社に対して、新規就航や増便、使用空港の追加、機材変更などを認めないことを定める。また、ICAOから安全上の懸念を解除された場合、国交省が当該国による具体的な是正措置を確認した後に就航や増便等を認めることとする。

また、要件では、外国航空会社が日本路線での就航や増便などの許可申請を行った際、その航空会社が過去1年以内に事故を発生させている場合には、安全性等についてその国の航空安全当局に確認を求めることなども盛り込む予定だ。このほか、現在も行っている外国航空機に対するランブ・インスペクションの実施も規定する。なお、ビジネス機などは適用除外とする。

(日刊航空)12/20

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

全日空、国内線運賃値上げ、燃油費の高騰を価格に転嫁、7億円の増収を見込む

全日空は19日、来年3月7～29日搭乗分の国内線の片道・往復運賃を最大約9%値上げすると発表した。円安で燃料費の負担が増し、収益を圧迫しているため。今月28日の購入分から適用される。同社の本格的な値上げは、2008年上期以来約6年ぶり、約7億円の増収を見込んでいる。燃料費の増加基調が続けば、3月末以降も値上げする可能性があるとしている。

値上げ幅は平均2%、普通運賃は約9%値上げする一方、羽田と大館能代、鳥取、米子、萩・石見を結ぶ4路線の運賃は据え置く。また事前購入で料金が安くなる「特割」「旅割」などの割引運賃は据え置く。この値上げにより、普通運賃の羽田—伊丹間が2万4600円から2万6800円に、札幌—沖縄は6万5300円から7万1200円にそれぞれ上がる。

(朝日新聞)12/19

<http://www.asahi.com/articles/ASF0TKY201312190096.html> (->

<http://www.asahi.com/articles/ASF0TKY201312190096.html>)

(産経ニュース)12/19

<http://sankei.jp.msn.com/economy/news/131219/biz13121912510011-n1.htm> (->

<http://sankei.jp.msn.com/economy/news/131219/biz13121912510011-n1.htm>)

(ANAプレスリリース)12/19

http://www.ana.co.jp/pr/13_1012/13-135.html (-> http://www.ana.co.jp/pr/13_1012/13-135.html)

全日空、ガルーダ・インドネシア航空、包括提携を締結、羽田—ジャカルタ線/共に新規開設

全日空とガルーダ・インドネシア航空は19日、二社間の包括提携を結ぶことで合意したと発表した。羽田—ジャカルタ線を新規開設して、日本—インドネシア間の便を拡充する。

両社によると、全日空は2014年3月30日から、ガルーダ航空は2014年上期中に、それぞれ羽田—ジャカルタ線を1日1便で新規開設する。日本とインドネシアを結ぶ両社の便を共同運航(コードシェア)便として運航するほか、どちらの航空会社を利用してもマイルがたまるよう協議を本格化させる。

これにより日本—インドネシアを結ぶネットワークが全日空は週14便、ガルーダ航空は週39便(関空路線を含む)、両社合わせて週53便に拡大する。

なお、航空連合では、全日空は「スターアライアンス」に、ガルダは現状では非加盟だが、来年3月5日に「スカイチーム」に加盟する予定だ。

(産経ニュース)12/19

<http://sankei.jp.msn.com/economy/news/131219/biz13121912510011-n1.htm> (->

<http://sankei.jp.msn.com/economy/news/131219/biz13121912510011-n1.htm>)

(財形新聞)12/19

<http://www.zaikai.co.jp/article/20131219/169144.html> (-> <http://www.zaikai.co.jp/article/20131219/169144.html>)

(ANAプレスリリース)12/19

http://www.ana.co.jp/pr/13_1012/13-ana-ga1219.html (-> http://www.ana.co.jp/pr/13_1012/13-ana-ga1219.html)

* 出典 ANAプレスリリース

《ANA およびガルダ航空の日本＝インドネシア間の運航便》

①ANA 運航便

区間	ANA 便名	運航便数	備考
成田＝ジャカルタ	NH937/938	7 便／週	
羽田＝ジャカルタ	NH855/856	7 便／週	2014 年 3 月 30 日より就航開始

②ガルダ航空運航便

区間	GA 便名	運航便数	備考
成田＝ジャカルタ	GA884/885	7 便／週	
成田＝デンパサール	GA880/881	7 便／週	
羽田＝ジャカルタ	GA874/875	7 便／週	2014 年上期に就航開始
羽田＝デンパサール	GA886/887	7 便／週	
関空＝ジャカルタ	GA888/889	4 便／週	
関空＝デンパサール	GA882/883	7 便／週	

バニラ・エア(LCC)、機内で京成スカイライナー券を割引販売

バニラエアは18日、12月20日のバニラエア就航に合わせ成田行き全便の機内で、京成の特急スカイライナーを割引価格で利用できる「スカイライナーバリューチケット」を発売すると発表した。

機内で発売する「バリューチケット」は、スカイライナーチケットの引換券。価格は成田空港・空港第2ビル～日暮里・京成上野間が大人2200円(通常2400円)、子供1100円(通常1200円)。乗車券との引き換えは京成の成田空港・空港第2ビル両駅のライナー券発売カウンター、または成田空港ターミナルビル1階の京成チケットカウンターで行う。有効期限は発売当日限り。

(レスポンス)12/19

<http://response.jp/article/2013/12/19/213317.html> (-> <http://response.jp/article/2013/12/19/213317.html>)

セントレア、2009年完成バスラウンジ、来年初の利用を想定

中部国際空港で、国際線の「バスラウンジ棟」が完成から5年を経て、来年のゴールデンウィークごろに利用が始まる見込み。2009年に完成したが、航空需要の低落で未使用だったが、来年から東南アジアとの直行便が運航されるなど、回復見込みの需要に備える。

中日新聞によると、国際線ロビー東側にあるバスラウンジ棟は鉄筋3階建て、延べ8500平方メートル。空港ターミナルビルと離れて駐機する旅客機にバスで乗客を運ぶため、総工費30億円をかけ建設した。09年3月に完成したが、原油高騰やリーマン・ショックのため航空各社の撤退が相次ぎ、3階の一部店舗を除いて使っていなかった。

中部空港では、来年3月から格安航空会社(LCC)のアジア最大手「エアアジアX」がマレーシア・クアラルンプールと、フ

イリピンのLCC「セブ・パシフィック航空」がマニラとの直行便を就航させ、いずれも週4便往復する。GW期間中は、チャーター便などの離着陸による混雑も予想され、出発便が集中する午前中、バスラウンジ棟を使うことにした。午前中に出発する3便程度に活用し、一日500人の利用を見込む。

(中日新聞)

<http://www.chunichi.co.jp/s/article/2013121890090704.html> (->
<http://www.chunichi.co.jp/s/article/2013121890090704.html>)

秋田空港、11月空港利用状況、利用者、前年同月比6.9%増

秋田県がまとめた11月の県内空港利用状況によると、秋田空港の利用者は前年同月比6.9%(7475人)増の11万5593人となり、6カ月連続で前年を上回った。さきがけWEBが報じた。

札幌便は3月からの増便効果が続き、前年同月比43.1%(2710人)増の8999人。同月に夜間駐機が始まり、10月から1日1往復増便した大阪便は、9.7%(1426人)増の1万6052人となった。両便とも旅行者を中心に増えている。

東京便は4.5%(3492人)増の8万1881人。個人や団体の旅行需要が伸びた。名古屋便も旅行需要が堅調に推移し、3.6%(226人)増の6456人だった。

(さきがけweb)12/19/13

<http://www.sakigake.jp/p/akita/economics.jsp?kc=20131218> (-> <http://www.sakigake.jp/p/akita/economics.jsp?kc=20131218>)

山口宇部空港、年明けに初の国際線チャーター便

山口宇部空港と仁川空港の間で、来年1月10日—2月2日にチャーター便が運航される。山口宇部空港では初の国際線連続チャーター便。アジアナ航空が期間中11往復(週3便)をおこない、県は、韓国からの観光客を1400~1600人と見込んでいる。読売新聞が報じた。

県観光振興課によると、2012年の県内の外国人宿泊客は延べ約4万8000人で07年の調査開始以降、最多となった。それでも、全国順位は35位で、県と宇部市などをつくる山口宇部空港利用促進振興会が、韓国の旅行会社などに対し、同空港の利用を呼びかける「エアポートセールス」を熱心に行っていた。

(読売新聞)12/18

<http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/yamaguchi/news/20131218-OYT8T00071.htm> (-> <http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/yamaguchi/news/20131218-OYT8T00071.htm>)

(->)

四国、7-9月国内線利用者数、前年同期比10%増、LCC就航が奏効

(日経によると)

四国運輸局が19日発表した7~9月の四国の運輸動向によると、国内航空線の利用者数は前年同期比10%増の165万3258人だった。6月に松山—成田間で格安航空会社(LCC)が就航するなど大幅に伸びた。

空港別に見ると、松山空港は12%増の67万7531人と増加した。有川浩氏の小説「県庁おもてなし課」が5月に映画化されるなど、観光客数が好調に推移している高知県の高知空港も8%増の34万9909人と伸びた。高松空港も8%増の37万6789人、徳島空港も8%増の24万9029人と、全ての空港で増えた。

(日経)12/20

<http://www.nikkei.com/article/DGXNZO64334210Z11C13A2LA0000/> (->
<http://www.nikkei.com/article/DGXNZO64334210Z11C13A2LA0000/>)

セントレア、11月利用状況、国際線、前年比5%増

中部国際空港は17日、11月の利用実績を発表した。国際線旅客数は前年比5%増の36万500人となり、3ヶ月連続で前年を上回った。旅客便の発着回数は、2%増の2328回だった。

一方、国内線旅客数は14%増の45万9271人と2桁増。発着回数も7%増の4496回と前年を上回った。

(トラベルビジョン)12/19

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59977> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59977>)

(セントレア HP)12/17

<http://www.centrair.jp/corporate/pdf/2013zisseki.pdf> (-> <http://www.centrair.jp/corporate/pdf/2013zisseki.pdf>)

*出典：セントレアHP

中部国際空港実績一覧 [2013年度]

区 分	単 位	確定値							速報値	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期計	10月	11月
1. 航空旅客数	人	745,585 (102)	796,919 (105)	781,053 (104)	834,322 (104)	1,022,016 (111)	853,200 (108)	5,033,096 (106)	859,742 (107)	819,771 (110)
国際線	"	371,221 (95)	356,898 (95)	348,982 (92)	365,260 (94)	444,181 (99)	367,355 (100)	2,253,903 (96)	384,100 (108)	360,500 (105)
国内線	"	374,358 (111)	440,021 (115)	432,071 (117)	469,062 (113)	577,835 (122)	485,845 (115)	2,779,192 (116)	475,642 (106)	459,271 (114)
2. 航空機発着回数	回	7,058 (103)	7,731 (110)	7,727 (112)	8,145 (111)	8,176 (112)	7,475 (108)	46,312 (109)	7,461 (102)	7,352 (108)
国際線	"	2,542 (95)	2,723 (101)	2,625 (102)	2,762 (102)	2,845 (105)	2,637 (103)	16,134 (101)	2,764 (104)	2,640 (107)
旅客便	"	2,411 (97)	2,529 (100)	2,407 (99)	2,524 (99)	2,577 (101)	2,363 (98)	14,811 (99)	2,427 (98)	2,328 (102)
貨物便	"	96 (94)	143 (144)	190 (198)	207 (178)	222 (220)	246 (230)	1,104 (178)	289 (237)	281 (242)
その他	"	35 (51)	51 (85)	28 (54)	31 (69)	46 (94)	28 (57)	219 (68)	48 (80)	31 (44)
国内線	"	4,516 (109)	5,008 (116)	5,102 (119)	5,383 (116)	5,331 (117)	4,838 (111)	30,178 (114)	4,697 (100)	4,712 (108)
旅客便	"	4,297 (110)	4,674 (112)	4,906 (120)	5,197 (116)	5,191 (116)	4,640 (109)	28,905 (114)	4,564 (103)	4,496 (107)
貨物便	"	1 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	1 (-)	0 (-)	0 (-)
その他	"	218 (91)	334 (193)	196 (98)	186 (116)	140 (147)	198 (160)	1,272 (125)	133 (51)	216 (135)

済州航空(LCC)、日本路線、搭乗者数200万人突破、記念セール

チェジュ航空は、12月19日より、日本路線で搭乗者数200万人を突破したことを記念し、「日本路線200万人達成感謝祭」を実施すると発表した。2014年1月7日～2月28日の期間、往復運賃で、成田—仁川6,800円～、関空—仁川・金浦4,800円～、セントレア—仁川・金浦5,800円～、福岡～仁川 3,800円～で販売する。

(チェジュ航空 プレスリリース)12/19

<http://jp.jejuair.net/> (-> <http://jp.jejuair.net/>)

成田と都内を最短で結ぶ「新型スカイライナー」、利用者1000万人突破

東京都心と成田空港を最短36分で結ぶ京成電鉄の新型「スカイライナー」の利用者が19日、1000万人を超えた。

2010年7月に運行開始した新型スカイライナーが在来線としては最速の最高時速160キロを達成し、現在では都内の日暮里駅から空港第2ビル駅までで最短36分となっている。

(WSJ)12/19

<http://jp.wsj.com/article/SB10001424052702304273404579267530041748294.html> (->

<http://jp.wsj.com/article/SB10001424052702304273404579267530041748294.html>)

那覇空港、第2滑走路建設、来年2月中旬着工の見通し

沖縄総合事務局は19日、県が2020年の供用開始を目指す那覇空港第2滑走路の建設について、来年2月中旬ごろの建設着工を目指す考えを示した。現在、県は埋め立て申請の審査を進めており、承認は来月初旬になる見通しだ。

(沖縄タイムス)12/20

<http://www.okinawatimes.co.jp/article.php?id=59165> (-> <http://www.okinawatimes.co.jp/article.php?id=59165>)

八重山観光、入域観光者数、前年同期比32.5%増、81万人超、新石垣空港開港効果

県八重山事務所は18日、1～10月の八重山の入域観光客数統計概況(推計)を発表した。入域観光客数は、前年同期比32.5%増の81万3106人となり過去最高を更新した。八重山ビジターズビューローが今年の目標に掲げていた80万人を2カ月残して突破し、年間で90万人を超える勢いで推移している。

八重山は3月7日に新石垣空港が開港したことが起爆剤となり、10月までの月別の八重山入域観光客数では、新空港開港以降4月から10月まで7カ月連続で月別過去最高を更新。観光消費額は492億5000万円で同31.1%増加した。10月の入域観光客数は台風の影響で欠航が相次いだものの、前年同月比50.2%増の8万3648人だった。滑走路が2千メートルに延びて格安航空会社(LCC)が参入したほか、本土直行便の増設、海外チャーター便の増加などで好調を維持している。

(琉球新報)12/19

<http://ryukyushimpo.jp/news/storyid-216892-storytopic-4.html> (-> <http://ryukyushimpo.jp/news/storyid-216892-storytopic-4.html>)

(八重山毎日)12/19

<http://www.y-mainichi.co.jp/news/23953/> (-> <http://www.y-mainichi.co.jp/news/23953/>)

エアアジアX(LCC)、エアバスA330型、25機発注

(NNA ASIAによると)

格安航空会社(LCC)エアアジアの長距離部門エアアジアXは18日、欧エアバスとの間で新たに中型機「A330—300」25機を発注する契約を結んだと発表した。発注額は60億米ドル(約6,240億円)規模。同型機に対する一括での発注としては、世界最大規模という。

これによりエアアジアXのエアバスへの発注機体数は計51機となる。2019年までに納入される。米保険大手アメリカン・インターナショナル・グループ(AIG)の航空機リース部門で業界世界最大手の米インターナショナル・リース・ファイナンス(ILFC)からリースされる6機を含めると計57機。機体はマレーシアのほか、タイ・エアアジアXなどの就航路線に投入する計画だ。

エアアジア・グループのトニー・フェルナンデス最高経営責任者(CEO)は、アジア太平洋地域での飛行時間が4時間を超える航空市場のLCCのシェアは10%にとどまっているが、今後5年で市場規模は35%に拡大すると仮定すると、市場では航空機100機を許容できる計算になると説明した。

エアアジアXは現在、A330—300を15機保有。このほか中型機「A350—XWB」を10機発注している。エアアジア・グループ全体でのエアバス社への発注機体数は世界最大の536機に達している。

(NNA ASIA)12/20

<http://news.nna.jp/free/news/20131220myr010A.html> (-> <http://news.nna.jp/free/news/20131220myr010A.html>)

(AIRBUSプレスリリース)12/18

<http://www.airbus.com/newsevents/news-events-single/detail/airasia-x-orders-25-more-a330-300s/> (-> <http://www.airbus.com/newsevents/news-events-single/detail/airasia-x-orders-25-more-a330-300s/>)

中国東方航空、傘下の中国聯合航空をLCCヘリブランド

(新華経済によると)

中国東方航空が傘下の中国聯合航空(中聯航)の格安航空会社(LCC)化を考えている模様だ。東方航空は既に、カンタス航空と合併で香港に設立した捷星香港航空(ジェットスター香港)で既にLCCへの参画に乗り出しているが、こちらは審査待ちの状態。12月17日付け第一財經日報が伝えた。

東方航空によると、中聯航は来年にもLCCとしてのモデル運営を始める計画。北京南苑空港と佛山空港、および西部

の一部空港を拠点にするという。現在、中聯航は南苑空港から40以上の路線で就航している。

(新華経済)12/19

<http://www.xinhua.jp/socioeconomy/economy/369085/> (-> <http://www.xinhua.jp/socioeconomy/economy/369085/>)

デルタ航空、機内での音声通話は認めず、顧客と従業員に正しい選択

デルタ航空は12月18日、米連邦政府の規制当局が機内での音声通話規制を撤廃しても、同社では解禁しないと発表した。これは、米連邦通信委員会(FCC)が12日に旅客機内での携帯電話利用解禁に向けた提案を採択したことを受けたもので、FCCでは、解禁が決定しても、実際に機内での音声通話を可能にするかどうかは各航空会社が決めることだとしている。

デルタ航空のリチャード・アンダーソンCEOは、従業員に向けた公開書簡で、多くの顧客から旅客機の客室内での音声通話はフライト中の快適性が損なわれるというフィードバックを受けており、従業員(特に機内乗務員)の多くが反対していると述べた。このため、アメリカ連邦通信委員会(FCC)が音声通話を許可した際にはeメール、テキストメッセージの利用を出来るようにするものの、音声通話は許可しないとしている。そして、「技術的にも法的にも可能になったとしても、われわれは何ができるかではなく、顧客と従業員のために何が正しいかが重要だと考える」と結んでいる。

(Flyteam)12/19

<http://flyteam.jp/news/article/30042> (-> <http://flyteam.jp/news/article/30042>)

(ITmedia)12/19

<http://www.itmedia.co.jp/news/articles/1312/19/news044.html> (->

<http://www.itmedia.co.jp/news/articles/1312/19/news044.html>)

(delta HP)

<http://news.delta.com/index.php?s=43&item=2206> (-> <http://news.delta.com/index.php?s=43&item=2206>)